

東南極氷床「ドームふじ」頂部位置の氷期・間氷期の変遷に応じた移動について

On the migration of Dome Fuji summit of East Antarctica over glacial - interglacial periods

*藤田 秀二^{1,2}、福井 幸太郎³、本山 秀明^{1,2}、中澤 文男^{1,2}

*Shuji Fujita^{1,2}, Kotaro Fukui³, Hideaki Motoyama^{1,2}, Fumio Nakazawa^{1,2}

1. 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所、2. 総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻、3. 立山砂防カルデラ博物館

1. National Institute of Polar Research, Research Organization of Information and Systems(ROIS), 2. Department of Polar Science, The Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI), 3. Tateyama Caldera Sabo Museum

南極ドームふじ近傍は、Oldest Ice（100万年を上回る年代をもつ最古のアイスコア）の掘削候補地として着目されている地域である。日本の南極観測では、1980年代からこの近傍のアイスコア研究と雪氷環境研究にターゲットをしばった観測研究をおこない、1990年代と2000年代にわたり2本の深層アイスコアを取得した。将来に掘削を計画するOldest Iceの掘削候補地の同定には、氷床表面環境、内部環境、底面環境の入念な観測とデータの検討が必要である。私達は、これまでこの地域で日本が実施してきた観測データをまとめ、氷床内部層の3次元構造の分析をすすめている。その結果、氷床内部に蓄積された歪みのパターンは、現在のドームふじの南方に過去のドームがあることを示唆した。さらに、最終氷期のLGM以降に堆積した雪の量は、強い南北勾配をもち、北方すなわち海側ほど堆積が多いことがわかった。最終氷期の当年代面を氷床表面とした地形図を作成すると、氷期の氷床ドームは現在のドームふじの南方約60kmの、氷下に山塊のある地域に出現した。研究発表ではデータ分析の最新状況を示す。

キーワード：南極、氷床、アイスコア

Keywords: Antarctica, ice sheet, ice core